

未来を担う若手技術者との座談会

新ビジョン委員長と若手技術者

写真左から

最明夏南氏、川根昌也氏、佐藤万里江氏、川田琢哉委員長、飯田大輝氏、藤本順子氏、折本寛太氏
(文中敬称略)

令和8(2026)年2月24日(火) 於 グランドアーク半蔵門

PC建協は2023年、Vision 2023 進化する技術と社会への貢献—PC建協の未来地図—を掲げ、「新3K」の実現に向けて働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

今回は、社会や働き方が変わる中で現場を支える若手技術者の皆さんに、仕事への向き合い方や実際に感じていることを語っていただきました。

川田 本日は、2016年3月に開催された「若手職員との座談会（未来を担う若きエンジニアたち）」から10年が経ち、その当時入社された皆さんに集まってくれました。ご自身やPC業界の今とこれからについて、皆さんが感じていることをお聞かせください。

10年前との働き方の比較と変化

藤本 私の役割の変化として、業務に関して後輩への指導や育成といった機会がすごく増えたと思います。加えて、若手から中堅に差し掛かると、部署の課題に対して自分が主体的に取り組むということが役割として必要と感じています。

人との関わり方の面では、年を追うごとに社外の方や社内でも接点

が少なかった方と関わる機会が増えていると感じます。

また、働き方の変化もありました。結婚して子供が2人いますが、ちょうど2020年4月にコロナ禍の緊急事態宣言が発令されていた時期に一人目を妊娠していました。妊娠中というところで、早めにテレワークに切り替えた方が良いのではないかと会社で配慮していただきました。現在は新型コロナウイルスが5類ですが、これらを契機にリモートで業務ができる体制が整ったと思います。育児をしていると子供の風邪などで、自分は勤務できるが、出社ができないという時にリモートという選択肢が増えたことで働きやすくなったと感じています。

現在は会社の制度を利用して時短勤務をしています。なかなか以前のように自分が納得いくまで仕事ができないといったことで、もどかしさを感じることもあります。しかし、そういうところは上司と相談しながら進めていけるところが良いところかな、とも思っています。

佐藤 10年前は常に先輩に指示を仰ぎながら仕事をしていましたが、経験を重ねるにつれて任せてもらえる範囲も広がり、自分なりのやり方を見つけられるようになりました。



株式会社ピーエス
事業推進部
技術推進グループ 主事

ふじもと じゅんこ
藤本 順子氏

入社：14年目
略歴：橋梁設計業務（設計照査、
詳細設計、解析等）に従事。

た。関係先とのやり取りが増えたことで、自分の意見を伝えるコミュニケーション能力も鍛えられたと感じています。

現在所属している部署には40歳前後の世代はいないのですが、後輩は次々に増え、気づけばポジションも上がって後輩の指導・教育を任される立場になりました。ただ、先輩や上司とは年齢が離れているため、ふとした時に気軽に相談できる人が少なく、心細さを感じることもあります。幸い社内全体としては仲が良く風通しが良いので、いろんな方と話す機会が度々あってそこに助けられています。

川田 建設業だけに限らず色々な業界で、景気が悪かった頃の採用控えがあり、人口動向が砂時計型になっています。どこも同じ苦しみがあるのかなと思います。

折本 私は10年前から現場の業務に従事していますが、入社当時は上

司と一緒に行動して仕事を覚えたリ、上司からの指示で動いていました。現在は自分が現場を動かしていく立場に変わったと感じています。入社1年目の部下と接するようになり、昔の自分と逆の立場になって

います。どのように指導や指示をしたらうまく伝わるのか、どうしたら部下がこれから先、やりがいを持って仕事ができるのか、ということを考えているうちに指導・指示をするようになりました。

また、発注者や協力業者と打ち合わせをする中で、コミュニケーションを取ることが特に大切だと感じています。働き方としては、週休2日制が浸透してきて休日があつかい取れるようになってきたと実感しています。

川田 自分が新入社員だった時にやってほしかった指導方法などを実践されているのでしょうか？

折本 自分が事前に知っていたら

もつとうまくできたのではないかな、と思う情報も多かったのですが、その辺りは先にアドバイスすることや、逆に自由にやらせてみるのも良いのではと思うこともあるため指導に反映させています。

飯田 最近は働き方が大きく変化し、10年前と比べ、現場も中小規模から大規模なものが増えてきました。私自身はまだ直属の部下はいませんが、周囲には部下を持つ者も増え、私自身も後輩と接する機会が多くなっています。そのため、後輩が働きやすい環境をどう作るか、自分の話がどうすれば相手に伝わりやすくなるかを常に考えるようになりました。

ビジョンにまつわる経験談

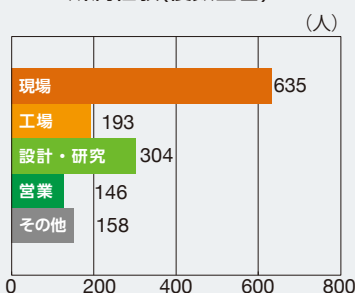
川田 Vision 2023では、生産性向上、脱炭素というテーマを掲げています。皆さんの経験の中で、これらの取り組みがありましたらお聞かせください。

最明 私は生産性向上について2点あげさせていただきます。1点目は、プレストレスを導入して、ひび割れの抑制や、耐久性のある材料を活用することを発注者から要望された物件に携わったことです。構造物の耐久性を向上させることによって定期

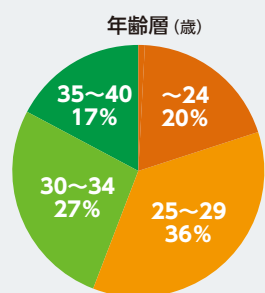
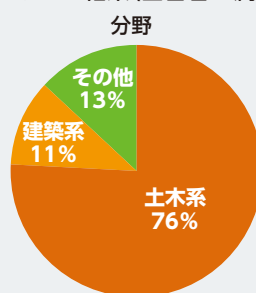
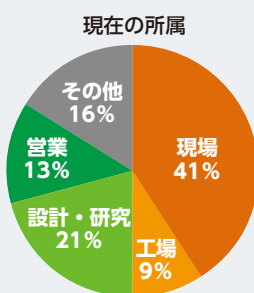
今回の座談会にあたり会員企業の若手社員にWebアンケートを実施しました。

回答数：1,042人

所属経験(複数回答)



アンケート結果(回答者の属性)





極東興和(株)
広島支店
技術部 工事課

おりもと かんた
折本 寛太氏

入社：11年目
略歴：入社時より16現場を担当し、
新設橋梁や補修工事に従事。
うち2現場では所長を経験。
現在は、現場の管理(出来形、品質、安全、
材料)、工程管理、原価管理を行う。

的な維持管理の作業の頻度を低減させることや、構造物全体のライフサイクルコストの削減につながることで、できることを業務を通じて実感しました。2点目は、床版取替工事、プレキャスト部材の活用が工期短縮と総合的に作業員の低減に大きく貢献していることが見て取れたことです。具体的には床版取替工事の設計では、工場で高品質な床版を製作し、現場での作業を最小限に抑え、交通規制期間の短縮や現場作業の効率化を図ることに努めました。工場生産による品質の安定化については、不具合のリスクを低減し、生産性向上に寄与しました。

業員の方々の高齢化も進んでいるので、コンクリートの埋設型枠を利用したり、プレハブ鉄筋や組立の容易な配筋を設計段階から採用するなど、現場作業の省力化を図った経験があります。

飯田 私の経験の中で、生産性向上と低炭素化を同時に実現した事例をご紹介します。プレテンション方式中空床版橋のホロー桁を工場で作成する工事を受注した際に、発注者に中流動コンクリートと硬化促進剤の使用を提案し採用されました。中流動コンクリートにすることで、打込み作業が簡略化され、締め人員も削減できました。

硬化促進剤の使用により仕上げ完了までの時間を短縮させることで施工効率が高まりました。それに加えて、初期強度が必要なPC桁の蒸気養生を不要とすることで、A重油の消費削減につながり、低炭素化へ寄与しました。開発に携わった方から

も「この手法で施工人員を34%削減できた実績がある」と聞きました。

川田 2024年度から適用された建設業の時間外労働上限規制の影響をどう乗り切っていましたか？

折本 週休2日制を指定している工事が増えてきたため、休日出勤が減っています。休日出勤が8時間の残業扱いになっていましたが、それが少なくなり、残業時間は大きく減りました。現場の仕事は部下に任せ、自分は事務所に戻って書類作成を進めるなど、協力しながら残業時間を減らしていこうという意識を皆に持つてもらっています。

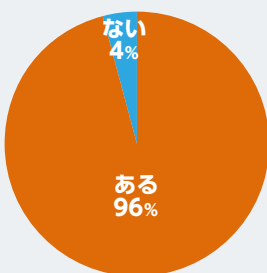
川田 現場の中で一緒にやっていた意識を共有するというのは良いですね。

PC建協では生産性向上のために、プレキャストやI-Bridgeを推進していますが、それがどのぐらい効果があるのかよく見えていませんでした。しかし、今回アンケート結果の10を見ると現場で生産性の向上を感じているという回答が多く安心しました。引き続き頑張っ、皆で生産性を上げましょう。

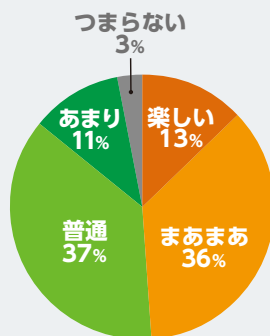
PC技術のおもしろさややりがい

川田 次のテーマはPCのおもしろ

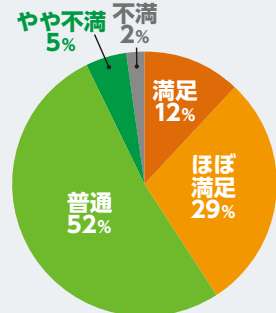
3 仕事で苦労したことはありますか？



2 仕事は楽しいですか？



1 PC業界に入ってよかったと思いますか？





株式会社ピー・エス
関東支店建築部
技術チーム 副長

さとう まりえ
佐藤 万里江氏

入社：12年目
略歴：建築設計業務を担当。
2年間は耐震補強設計、その後は
ハーフプレキャストPC床板の設計に
従事。

さ、やりがいを感じる点についてお聞かせください。

佐藤 建築の視点でお話しすると、RC造では柱梁も多くなり、スパンを飛ばせず、見た目もスマートさに欠け、重々しい印象になりがちです。その点、PC造にすると柱梁はスリムな部材になり長いスパンを飛ばせるので、柱の本数を減らすことができます。大型施設に適しているのはもちろん、デザイン性、意匠性の自由度が格段に上がる点が大きなメリットだと感じています。RC造では難しいことでも、PC造だと実現可能になりスタイリッシュな建物に使えるので、そこがおもしろい点だなと感じています。

折本 おもしろさ、やりがいとしては、シンプルに構造物がかっこいいな、と思っています。私は10年間現場に携わってきて、これまでクレーン架設の橋梁が多かったのですが、現在携わっている現場では片持架設を

行っています。1ブロックずつ張り出していく毎に、ああ、できているな、と実感できていくところにやりがいを感じています。PC構造物の魅力として、専用の高強度ケーブルを使用し、PC技士や登録PC基幹技能者といった専門的な知識を持っている人が携わって構造物を作っているところがとても独自性があって良いと思っています。

また、自分が関わった橋梁が地域の生活に役立ち、愛されるようになっていけば良いな、と思って施工しています。

最明 入社後、たくさん物件に携わってきた中で、PC技術の奥深さというのを日々実感しています。PC技術っておもしろいというのを若い方にも、もっと興味を持ってもらえるように技術そのものの魅力を向上させていくことに重きを置くべきと感じています。

PC構造物の最大の魅力として

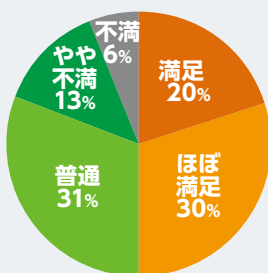
は高い耐久性と機能性にあり、老朽化が社会問題になっていく中で一番重要な構造物になってくると考えています。更新や補修に伴うCO₂の排出量も抑制でき、脱炭素社会の実現にも貢献できると考えています。

川根 私は設計部署時代に、リクルート活動で大学を訪問した際、まだPCを知らない学生さんから「パソコンを作っているんですか？」とよく聞かれました(笑)。皆さんはどのようにPCの魅力や面白さを伝えていきますか？

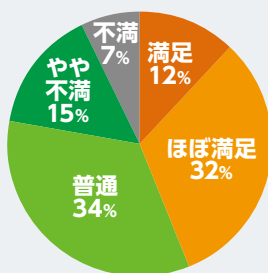
折本 私は現場見学会が一番良いと思っています。現場を見てもうえればわかってもらえるかなと。現在従事している現場も、片持架設時の見学会が多いのですが、見学者が工事用エレベーターで昇るときに歓声が上がったり、構造物の大きさに驚いたりしています。実際一般の方には、建設業界って意外と何をしているか知られていないと思います。

学生さんは「職人さん」のイメージが強いと思います。ただ自分が手を動かす側じゃないよということや、設計や営業などいろいろな仕事もあることも伝えていければもっと魅力的になると思います。

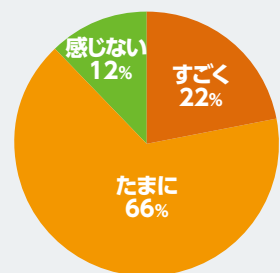
6 休日日数や勤務時間についてどう感じていますか？



5 給与・賞与・手当に満足していますか？



4 社会の役に立っていると感じていますか？





川田建設(株)
東京支店
技術部技術課主任

さいみょう か な
最明 夏南氏

入社：10年目
略歴：3年目までは現場に勤務し、
場所打ち箱桁橋の施工や片持架設
などを担当。
4年目より現所属に配属され、詳細設
計として新設橋、半断面床版取替、耐
震補強を担当。

ICT活用で働きやすくなった ことと今後導入すべき技術

川田 ご自身の業務の中でDX(デジタルトランスフォーメーション)をどのように活用していますか。また、今後導入すべきだと思う技術についてご意見をお聞かせください。

川根 私の業務ですと、Web会議の利用が進みました。現場と本社でいつでも会議ができますし、発注者や協力会社の方とも行っています。もちろん対面で話することも必要だと思いますが、進捗状況などの定期確認はWeb会議で十分だと思います。移動時間が削減され、生産性が向上しました。業務の効率化という意味ではWeb会議が浸透したことが一番だと思います。

また、現場では、状況に応じて遠隔の立ち合いを活用しています。タブレットを使った遠隔検査が発注者からも好評で、業務の効率化になってい

ると思います。

今後導入すべき技術分野として点検業務が考えられます。点検業務は非常に専門性が高く、経験が必要だと思いますが、ひび割れ調査などがAIやカメラ、ドローンといった技術の発展で省力化でき、普及していけばこの業界がもっと良くなっていくと思います。

佐藤 私は今、マンションの床材に使われるハーフプレキャストPC床板の設計に携わっています。そこでDXの活用をしているのが、床板の割付作業の自動化です。配管を通すための孔を床板にあける際、PC鋼線を避けなければなりません。以前は経験豊富なベテラン社員が割付作業を行っていましたが、この作業を自動でできるソフトを開発したことで、経験の浅い人でも作業が可能となり、大幅な時間短縮につながりました。

また、自社工場で床板を製作する

際は、大量のインサート設置やコンクリート打設まで自動化されています。

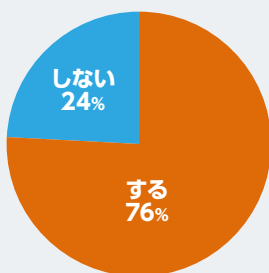
魅力的な建設業に必要なこと

川田 次に魅力的な建設業に必要なことは何か、新3K(給与、休暇、希望)なども含めて、お聞かせください。

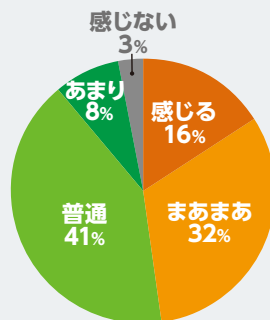
藤本 新3Kの給与に関しては、自分の仕事が見える形で評価に反映されることが、モチベーションに繋がっていると思います。大きい仕事に携わったときや、自分の頑張りが正確に評価されているのか確認できるのが良いと思います。仕事を10年ぐらいしてきましたが、仕事とプライベートのバランスが重要だと思っています。特に私の場合には育児があるため時短勤務しており、業務時間は16時までと決まっています。休む時はしっかり休む、仕事をする時は集中してやる、といったように自分でメリハリをつけて仕事をすることがパフォーマンスの向上につながると思っています。育児や介護、傷病といった長期休暇の制度が10年前と比較して充実しており、男性の育児についても、取りやすくなっています。

一方で、制度を充実させるのも大事ですが、自分が抜けた後に仕事を

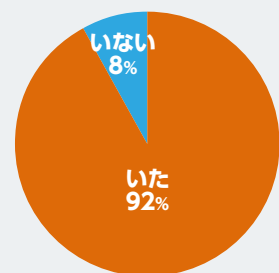
9 家族や友人に仕事の話をしますか？



8 会社は、あなたを適切に評価していると感じますか？



7 一緒に仕事をして尊敬できる人はいましたか？





オリエンタル白石㈱
技術本部技術部
補強チーム係長

いいだ だい き
飯田 大輝氏

入社：13年目
略歴：現場7年、設計5年、現在はPC床版取替の詳細設計業務に従事。

引き継いでくれる同僚や上司の理解、協力が非常に重要だと思っています。休暇を取る側とサポートしてくれる側、その両方に配慮した仕組みができると良いと思っています。

川田 周りからのサポートの仕組みというところ、例えば、自分の業務を具体的に書き出して誰か手伝ってくれる人によってもらうといった意味ですか？

藤本 育休期間中、業務をフォローしてくださる方々の負担を考慮し、手当の支給や人員の補填といったバックアップ体制を整えるイメージです。

最明 私は好きなことをやるために休みをいただいています。心身のリフレッシュの時間は確保できているのはありがたいなと日々思っています。個人的な希望として当社は8時半始業の5時半終業ですが、勤務時間に対して、もう少し柔軟に仕事をさせてもらえないか

など思っています。もちろんやるべき仕事は必ずやるのは変わりません。各々の業務特性とか、忙しい時と暇な時があるので、それに合わせたり、ライフスタイルに合わせるなど、自由な時間管理が可能になれば、もっと楽しく業務ができると思っています。自由な働き方を売りにすればPC業界の魅力向上に貢献できると確信しています。

佐藤 現場や工場では、若手不足という課題を抱えています。この状況を打破するには、設備の充実、特に水回りなどを改善することが不可欠だと思います。また以前は現場宿舍は共同生活が当たり前でしたが、現在はどの現場も個室となっていて、完全にプライバシーが確保できると好評です。こうした物理的な投資をさらに進めることが、若手を現場に惹き付ける力になると考えています。

また、離職理由の多くに人間関係

があげられますが、本来そのような理由でキャリアを諦めることは非常にもつたいないことだと思いません。純粋に仕事に打ち込み、自分の成長を実感できる環境を整えることが、結果として活気あふれる風通しのよい社風を作り、PC業界全体の魅力発信に繋がっていくと思います。

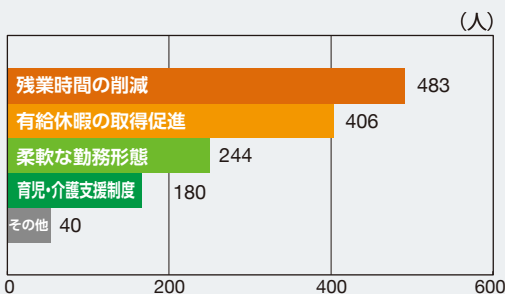
飯田 私はかつての旧3K(危険・きつい・汚い)というイメージを払拭し、そうではないのが当たり前と言える環境を作ることこそが、この仕事の本当の魅力に繋がると思っています。

休暇についても同じです。週休2日をしっかり確保することは、単なる休息以上の意味があると考えています。心身ともにリフレッシュし、ストレスを発散できる時間があるからこそ、現場で常に気を張らずに済み、結果として現場全体の安全にも直結してくるはずですね。

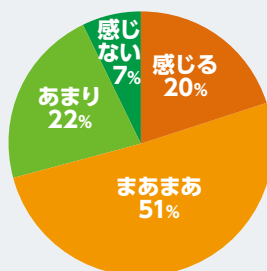
そして最後はやはり人ですよ。部下が上司に質問しやすいのはもちろん、上司からも部下にフランクに相談できるような、風通しの良い雰囲気。そんな環境を人任せにするのではなく、皆で作りに上げていくことが何より大切だと感じています。

川田 最後におっしゃったのが、心理的安全性ですね。日本の2/3の

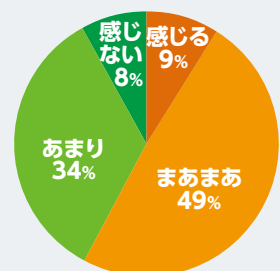
12 ここ数年で、どんなことで働き方の変化を感じますか？
(複数回答)



11 ここ数年で働き方が変わってきたと感じますか？



10 ここ数年で生産性が向上していると感じますか？





三井住友建設(株)
東京土木支店
新東名中津川橋作業所
設計主任

かわね まさや
川根 昌也氏

入社：14年目
略歴：PC上部工の施工管理業務や設計業務を経験。主に詳細設計業務に携わり、現在は設計を担当したPC上部工工事の現場に従事。

人口でGDPが日本より高いドイツでは、会議は少数で行われ、参加者は全員発言しなければならないそうです。会議では、皆が自由に意見でき、時には激しい言い合いになることがあっても、会議が終われば一切のわだかまりを残さない。そういった徹底した議論が生産性の向上につながっているのかもしれない。日本も、もっと全員が本音でぶつかれる環境を作っていかねばならないと思っています。

川根 人生のイベントとして、結婚や子供が生まれるタイミングで、転職した同期がいます。親の介護のため現場勤務で点々とするのは難しいという方もいます。そういった状況に対応できるようにテレワークや時短勤務、遠隔オフィスといったものをもっと普及していけば良いと思います。一方で、現場は常に動きがあるため、コンクリート打設の日程が決まったら絶対離れられないという

場面も出てきてしまいます。現在は現場ごとに所長や職員の配慮や工夫で成り立っている部分もあるかと思っています。人手不足なので難しいかもしれないですが、予算が発注の段階から組み込まれていたり、人員が十分に確保されたケースが今後増えれば、現場勤務でも育児や介護をしながら働き続けることができ、離職者が減るのではないかなと思います。

折本 今回の若手へのアンケート結果の13、14を見ると、上位に休暇や給与などが入っており、新3Kへの取り組みが実っていると感じました。さらに魅力的な建設業に必要なことは、ものづくりの大切さやかつこよさを、しっかりと伝えることが大切だと思っています。例としては、SNSでどんな魅力を発信していく場所があっても良いのでは、と思っています。携わった構造物が地図に残るといった魅力があります。技術者の名前を載せた橋名板をつけたりして名前を残すことが

できれば、さらにやりがいや働きがいがある建設業界になっていくと思います。**川田** おもしろく良いご提案だなと思います。建築物であれば、著名な建築家など、誰が手掛けたのが明確にわかります。土木では、昔から無名戦士と言われ、名前が残らず、誰が作ったか分からない。ただモノは何百年と残る。橋名板に何百人も名前を書くわけにはいきませんが、QRコードのようなものでたどっていけば見られるとか。そうしたら家族に見せてあげられるとか。すごくおもしろくて新しい発想だと思います。

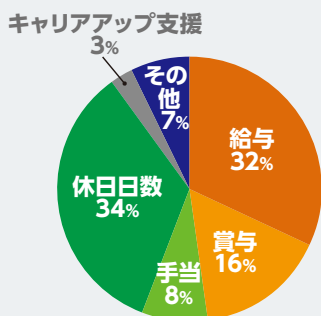
さらなる働きやすい職場づくり

川田 10年前に比べると新3Kの話では給与と休暇が改善したと感じているようです。それはポジティブに受け止めていきたいと思っています。多様な働き方、職場環境の改善など、更にモチベーションが上がるような取り組みを進めていければと思っています。

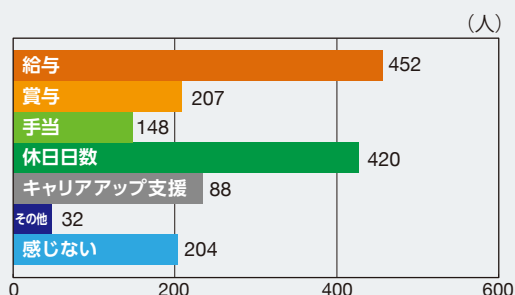
PCの仕事に携わるといことは、素晴らしいものを作り、それを後世に残していく仕事だと思っています。皆さんがその点に誇りを持って取り組んでいらつしやるのがよく分かりました。

また、ワークライフバランスの重要性についても強く実感しました。

14 ここ数年で満足度が高かった
処遇改善の事例は何ですか？



13 ここ数年で、処遇が改善されたと感じる事は？
(複数回答)





▲ 座談会を終えて

特に家庭内では、夫婦がうまく連携を取りながら、共働きが当たり前の時代になっていきます。その中で、育児制度がより実効性のある形で運用されることや、例えば誰かが現場を一時的に離れる際に周囲が応援できるように仕組みづくりも必要だと感じました。決して簡単ではありませんが、乗り越えていかなければ

ならない課題だと思えます。本日改めてそうしたお話を伺い、会社としてどのような形で提供・支援できるのかを考えていかなければならないと感じた次第です。今日は素晴らしいメンバーの皆さんと大変有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

座談会を終えて

この10年間で、建設業は激変しました。自然災害の激甚化・頻発化が進み、インフラ復旧工事が常態化した感があります。

一方で、東京オリンピック・パラリンピック、大阪・関西万博、新幹線整備、都市再開発など、ビッグプロジェクトが目白押しでした。これに、働き方改革関連法の適用(いわゆる「2024年問題」)が重なり、深刻な人手不足が一層加速するとともに、生産性向上が強く求められるようになりました。

こうした状況下で、否応なくICT・DX化やAIの導入が進み、さらにコロナ禍への対応も相まって、リモート勤務など多様な働き方が取り入れられてきました。土日現場閉所も一般的な取り組みとなりつつあり、これらが前向きに受け止められていることをうれしく思います。

今回、10年前に「若手職員との座談会(未来を担う若きエンジニアたち)」の企画として対談した3名を含む6名の若手と懇談する機会を得

ました。業界の未来を託すに十分な逞しさと柔軟な発想力を備えており、とても頼もしく感じました。それぞれが自身の成長を実感し、「PC愛」を熱く語る姿は、実に眩しいものでした。

一方で、家庭と仕事の両立、いわゆるワークライフバランスについては、なお解決しきれていない課題も残されています。皆さんの率直な意見を受け止め、待遇や仕組みのさらなる改善が必要であることを、改めて認識させられました。

今後も建設業界を取り巻く環境は変化を続け、新たな課題への対応が求められますが、本日お集まりいただいた皆さんには、今後ますます活躍していただき、業界が力を合わせて明るい未来を切り開いていけたらと念じています。



新ビジョン委員会
川田 琢哉委員長
川田建設(株)
代表取締役社長